

しまんと

発行：四万十町教育研究所

第112号（通し番号）

令和7年7月16日 発行

早いもので、1学期も残り少なくなってきました。教職員の皆様におかれましては、学期末の作業に追われ、あわただしい毎日をお過ごしのことと思います。1学期も研究員の研究協力や不登校、あるいはその傾向の児童生徒の支援会や情報共有会等のご案内をありがとうございました。

研究員はICTの研究をさらに進めるべく、小中学校への訪問、または先進校での視察研修など、積極的に行っております。ICT機器の有効活用について校内研修をお考えの学校は、ぜひ研究員にお声がけください。一緒に授業での活用等について、考えていきたいと思っています。

さて、不登校やその傾向、情緒に課題のある児童生徒の教育相談及び支援を行うとした四万十町教育研究所ですが、一昨年から皆さんもご承知のとおり、言語に課題のある児童生徒さんに対して言語訓練を行っています。その人数は現在、約40人。一人で回っているため、ハードな日々ようです。しかし、子どもたちと訓練をするうちに、中学生においてはどんな高校に行きたいのか、そして何をしたいのなど、心の内を語ってくれるそうです。目的をもち訓練を受けているので、効果も少しずつ現れているようです。

令和6年度の教育研究所の報告から

発達教育支援員（ST）より成果と課題

【成果】・中学生は授業に向かう姿勢や定期テストでの点数上昇を目指す姿勢が出現している。

・構音不明瞭な小学生の構音が発音できる音が増加し、明瞭度も向上している。

【課題】・実人数が30名を超え、各学校複数名の実施となり、調整が難しくなっている。

・算数や英語についての訓練希望が多くなっている。



令和7年度の取り組み

・人数の調整のため、訓練希望届けの提出で学校と目標設定について共有する。

・学校との連携のために、児童生徒の状況を共有できるように、訓練時の変化を具体的に報告する。

・学習障害につながる児童生徒に早期に対応できるよう、調整していく。

以上のように四万十町では、学力不振からの不登校を未然防止しようという考えから、言語訓練を取り入れました。

また、本年度より小学校入学がスムーズにいくよう、就学前健診プロジェクトを立ち上げ、これまで、10月ごろより行ってきた就学前検査を5月に行いました。立命館大学の川崎教授らによる研究として行い、県下の言語聴覚士の方々の協力により、テストや社会性チェックリストの実施ができました。これにより、支援方法のアドバイスをいただき、学校と保育で切れ目のない支援を行っていかうとするもので、学校に上がった後も追跡調査、フォローアップをしていきます。

皆様におかれましては夏休み、閉庁期間には暑さに気を付けてゆっくりお休みください。1学期も情報共有等、ご協力ありがとうございました。2学期もよろしくお願いします。

複線型授業 取り組みの紹介

川口小学校の織田先生が5・6年生の社会科の授業で複線型授業の実践をされていたので、その様子を紹介します。

ロイロノートを活用しての実践で、子どもたちには、共有機能を使って学習の流れ（シラバス）が示されていました。共有ノートに記入していくため、一人ひとりの学びをリアルタイムで参照することができていました。自分の席を離れて友達に話を聞きに行く様子も見られ、学習者主体の協同的な学びの実践の1つとして多くのことを学ばせて頂きました。

大昔の人々はどのような暮らしをしていた？



資料から分かったこと

資料から考えたこと

考えたこと

【キーワード】 狩り、漁



また、毎時間振り返りを書いていく中でタイピング力も向上しているそうで、10分程度の時間で600文字以上の振り返りを書いている児童もいました。

窪川小 タイピング選手権参加のお手伝いをしました

7月3日に窪川小学校3年B組の児童に向けて、タイピング選手権への参加の仕方を伝えさせて頂きました。タイピング力の向上の一助となればと思っています。

ご依頼を頂ければ、参加の仕方を見童たちに伝えさせていただきますので、ぜひお気軽に研究所までご連絡ください。



令和の授業づくり講座【教育DX】伊野小・初月小

6月10日に伊野小、7月1日に初月小で行われた教育DX研修会に参加してきました。町内から参加されている先生もおられたので、校内で伝達講習があったかもしれませんが、授業の様子を簡単に紹介します。

◇伊野小 5年生 社会 「米作りのさかんな地域」

本時の目標 「南魚沼市の地形や自然条件を調べ、米づくりに適した土地であることを理解する。」

使われていたクラウド環境 (チャット・ロイロノート・スプレッドシート)

単元の系統及び単元計画

3日：はたらく人とわたしたちのくらし
4日：農の地図を巡って
5日：「米を育てる食料生産」

本時の板書と資料

本時の目標
南魚沼市の地形や自然条件を調べ、米づくりに適した土地であることを理解する。

活動内容	主な学習形態	振り返りにおける子どもの思い学びの姿	評価規準
自分たちが食べている米はどこで生産されているかに着目して、米の生産の分布を捉え、学習問題を作り、学習計画を立てる。	個人学習	日本のどこで米が多く生産されているかを調べたら、新潟県が多かったのは、どうしてか調べてみたい。	【1】 写真、ロイロ
1年間の米作りの作業の流れに着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米づくりに、様々な自然条件が必要不可欠なことが分かった。品質のよい米を生産するための人々の工夫や努力についても、もっと調べてみたい。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
3年間の米作りの作業の流れに着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	それぞれの時期に必要な作業を、だんだんに丁寧に行うことが米づくりに大切だと分かった。また、天気や土壌の状態が収穫にも関係していることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米の生産者から消費者の間に届けられる様子に着目して、米の生産と流通、販売に関わる人々の働きや、米の流通に必要な費用について理解する。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート
米づくりに関与している人々に着目して、地しみの季節から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。	個人学習	米の生産・流通には多くの人が関わっていることがわかった。また、それぞれの費用を見ることが分かった。	【10】 写真、ロイロ、スプレッドシート

活用するICTツール (デジタル教科書)

写真、地図帳、グラフ等の資料を複数活用して、分かったことを書き出し、ロイロにまとめる。

夏の日照時間が長い
昼と夜の寒暖差が大きい
雪が解けて大量の水になる
盆地のような地形も関係している

南魚沼市は、盆地のような地形で、気温の差が大きいことや、冬に多く降った雪の雪どけ水が米づくりに適しているから米づくりがさかん!

伊野小学校では、指導案にピクトグラムを入れて学習活動を明確にしていました。視覚的に理解しやすく、どのような活動を行い児童が学びを深めていくのかが非常に分かりやすいと感じました。授業は、学習問題の把握を全体でし、予想をした後、それぞれの児童が手元にある社会科の資料集や教科書を使いながら情報をまとめていました。常に他者参照ができる環境での学習であり、まとめの際にはチャット機能を用いて交流をする様子が見られました。

下記のURL及びQRコードで資料が公開されていますので、より詳しくご覧になりたい方はこちらからアクセスしてみてください。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10zbaVs_EzRbfZErEq9_OAEesolmiwfqYD7_xFOtRgw/edit?usp=sharing



◇初月小 5年生 社会 「武士による政治のはじまり」

本時の目標 「鎌倉幕府の場所や守護・地頭の配置を調べることや、将軍と御家人の関係について調べることを通して、源頼朝が行った政治について理解する。」

使われていたクラウド環境 （ロイロノート）



初月小学校では、「根拠をもっと相手に伝え、考えを確かめ合ったり深め合ったりする」という対話の力を鍛えることを目的にして研究を進めていました。目的を達成するために、DXの観点から①魅力ある課題設定 ②他者参照 ③端末持ち帰りの活用を3点を意識して学習者主体の学びを行っていました。

本時の授業では、学習課題を全員で確認した後、ロイロノートに課題に対する考えを記述していました。教科書やインターネットなどで調べ、考えをまとめた後、根拠をもって考えた意見を対話し、友達の考えを踏まえて自分の意見を改めて考えて直していました。クラウドを用いて考えを記述し、他者の意見をクラウドと対面とで確認することで、学びを深めている姿が印象的でした。

講演（講師：高知市教育委員会 統括DXアドバイザー 岡崎 伸二 氏）では、令和の授業DXを目指す3つのポイントを教えてくださいました。

① 授業の流れを明示し、児童と共有する。

シラバス（授業の流れ）を示して、先生が課題について説明し、児童の心に火を付けることが重要。教師は指揮者から伴走者になることがこれから求められていることであり、タブレットを使ったから複線型、自由進度学習になる訳では無いと仰っていました。

② 課題型持ち帰り

学びは与えられるものではなく、自分で獲得するものであるという「学び方」を身につけさせることを意識することが重要。「授業で調べ学習をする」「発表の資料を作る」は効果的ではない時間の使い方なので、それは下記に記す課題型持ち帰りにて達成してもらうことを狙いとするということです。

*課題型持ち帰りのイメージ

「〇月〇日の授業までにこの課題をやってきた人には発表して欲しい。」と伝える。授業当日、課題をやってきた児童には発表をしてもらう。やってきた子どもを評価し、少しずつ持ち帰り型の学習ができる児童を育成していくという気持ちが大切。

③ 他者参照＝協働的な学び

「動かなくてもできる」「動くと効果が高まる」「班やグループを超える」という視点を教師が持つておく。協働的な学びをする時には、必然性を与えることも重要。何のために、どんな意見を交換するのかを児童に示す。ICTは教え込む道具ではなく、コミュニケーションをするための道具であり、一人やグループの代表が前に出て発表させる授業はやめる。何度も何度も友だち同士で発表することで、一人でも多くの児童がたくさん発表できる機会を増やすことを目指すことが重要だということでした。